

14. 合併に関連した感情、意識、考え

問14 平成17年4月1日に佐久市・臼田町・浅科村・望月町が合併して、現在の「佐久市」が誕生しました。それに関連して、いくつかお尋ねします。

[1] あなたは、上記の合併の時点でどちらにお住まいでしたか。

		【旧佐久市】		%	
1	旧佐久市	700	88.7		
2	旧臼田町	7	0.9		
3	旧浅科村	7	0.9		
4	旧望月町	1	0.1		
5	その他の市町村	65	8.2		
99	無回答	9	1.1		
	合計	789	100.0		

		【臼田・浅科・望月】		%	
1	旧佐久市	13	1.7		
2	旧臼田町	336	44.5		
3	旧浅科村	147	19.5		
4	旧望月町	215	28.5		
5	その他の市町村	35	4.6		
99	無回答	9	1.2		
	合計	755	100.0		

[2] [1]で1～4のいずれかを選んだ方にお聞きます。[1]で答えた旧市町村と比べて、あなたは、現在の佐久市をどの程度身近に感じていますか。一つ選んで○を付けてください。

		【旧佐久市】		%	
1	身近に感じる	96	12.2		
2	ある程度身近に感じる	100	12.7		
3	特に変わらない	416	52.7		
4	ある程度遠く感じる	62	7.9		
5	遠く感じる	27	3.4		
	非該当	74	9.4		
99	無回答	14	1.8		
	合計	789	100.0		

		【臼田・浅科・望月】		%	
1	身近に感じる	35	4.6		
2	ある程度身近に感じる	96	12.7		
3	特に変わらない	217	28.7		
4	ある程度遠く感じる	224	29.7		
5	遠く感じる	134	17.7		
	非該当	44	5.8		
99	無回答	5	0.7		
	合計	755	100.0		

[3] すべての方にお聞きします。佐久市の合併について、あなたは現在、どのように評価していますか。一つ選んで○を付けてください。

【旧佐久市】		%	
1	大いに評価できる	46	5.8
2	ある程度評価できる	210	26.6
3	どちらともいえない	355	45.0
4	あまり評価できない	136	17.2
5	全く評価できない	28	3.5
99	無回答	14	1.8
	合計	789	100.0

【臼田・浅科・望月】		%	
1	大いに評価できる	32	4.2
2	ある程度評価できる	170	22.5
3	どちらともいえない	230	30.5
4	あまり評価できない	251	33.2
5	全く評価できない	58	7.7
99	無回答	14	1.9
	合計	755	100.0

[4] すべての方にお聞きします。佐久市が合併したことにより、新市のまちづくりに必要な財源として「合併特例債」を活用することができます。これについて、次のA・B二つの考え方があるとして、

A: 返済にあたり7割を国が負担してくれるので、積極的に活用すべきである。

B: 借金であることに変わりはないので、活用は最低限にとどめるべきである。

あなたの考えはどちらに近いですか。この中から一つ選んで○を付けてください。

【旧佐久市】		%	
1	Aに近い	95	12.0
2	どちらかといえばAに近い	132	16.7
3	どちらかといえばBに近い	266	33.7
4	Bに近い	285	36.1
99	無回答	11	1.4
	合計	789	100.0

【臼田・浅科・望月】		%	
1	Aに近い	70	9.3
2	どちらかといえばAに近い	115	15.2
3	どちらかといえばBに近い	273	36.2
4	Bに近い	284	37.6
99	無回答	13	1.7
	合計	755	100.0

現在の佐久市は、平成17年に4つの市町村が合併して誕生した新自治体である。いわゆる「平成の大合併」で誕生した市町村で住民投票が行われたのは、今回の佐久市が初めてのケースであったため、市町村合併にともなう感情や評価と、住民投票における態度形成や投票行動との関連性についても、本調査および今後の研究において探ることとしたい。

まず、合併時点での居住地について尋ねた〔1〕を見ると、「その他の市町村」と回答した人の割合は旧佐久市で8.2%、旧町村部では4.6%にとどまる。したがって、今回の住民投票における有権者の大半は、旧4市町村のいずれかの住民として佐久市の合併を経験しており、市町村合併によって生じた意識や感情と住民投票との関連性について分析する上で、佐久市は適切な調査地であるということが分かる。

そのうえで〔2〕の集計結果を見ていくと、現在の佐久市に対する親近感は、旧佐久市内と旧町村部で大きな開きがある。旧佐久市において特徴的なのは、「特に変わらない」が半数を超えている点である。佐久市の合併において、旧4市町村の中では旧佐久市は自治体規模の面で明らかに中心的存在であり、旧佐久市の住民にとっては、合併前も合併後も「佐久市民」であることに変わりはないため、このような集計結果になるのもごく自然なことである。一方、旧町村部では「ある程度遠く感じる」と「遠く感じる」の合計が半数近くに達しており、合併前の旧市町村と比べて現在の佐久市に対して心理的な距離感を感じている住民が多いことが分かる。旧町村間でさらに詳細に比較すると、とりわけ望月地区において現在の佐久市に対する距離感が強く、「ある程度遠く感じる」と「遠く感じる」の合計は6割近くに上っている。

続いて〔3〕では、佐久市の合併に対する現時点での評価を尋ねているが、ここでも旧佐久市と旧町村部において〔2〕と比較的似たような傾向が見られる。「あまり評価できない」と「全く評価できない」の合計は旧佐久市では約2割にとどまるのに対し、旧町村部では約4割に達している。合併そのものに対する不満も、やはり旧町村部では相対的に強いと言える。

また、いずれの地域においても、合併に対する評価と賛否の行動との間に一定の相関関係を読み取ることができる。例えば旧町村部では、佐久市の合併を「大いに評価できる」と答え、投票に参加した人のうち賛成票を投じたという回答が4割を超えているが、逆に合併を「全く評価できない」という人では、投票した人のほぼ全員が反対に投票したと答えている。旧佐久市でも、概ね似たような傾向が見られる。したがって、これらのことから、合併に対する評価もまた、住民投票における賛否の行動を規定する要因として一定程度まで作用していたと推測することができる。

最後に〔4〕では、合併特例債についての考えを尋ねている。これに関しては居住地域による差は見られず、いずれの地域でも7割前後が「B：借金であることに変わりはないので、活用は最低限にとどめるべきである。」に近い考えを持っていることが分かる。〔4〕の集計結果と賛否の行動との間にもかなりはっきりした相関を読み取ることができ、旧佐久市および旧町村部ともに、「積極的に活用すべき」と考える人は半数以上が賛成に投票しており、逆に「活用は最低限にとどめるべき」とする人は8割以上が反対に投票している。